

アビラテロン酢酸エステル錠250mg「JG」の溶出試験

1. 試験目的

アビラテロン酢酸エステル錠250mg「JG」と標準製剤ザイティガ錠250mgとの溶出挙動の類似性を確認するために、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に従い溶出試験を実施した。

2. 試験条件

試験法	回転数 (rpm)	試験液	温度 (°C)	試験液量 (mL)	ベッセル 数	分析法
パドル法	75※	pH1.2(日本薬局方 溶出試験第1液)	37±0.5	900	12	液体クロマト グラフィー
	50	pH3.0(薄めたMcIlvaine緩衝液)				
		pH6.8(日本薬局方 溶出試験第2液)				
		水				
	100	pH1.2(日本薬局方 溶出試験第1液)				

※ 50rpmではベッセル底で錠剤が膨潤した後、崩壊が緩やかなため溶出率が低くなり、有効成分の一部が分解することが確認されたため、75rpmで実施した。

3. 判定基準

回転数 (rpm)	試験液	判定基準
75	pH1.2	標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値は42以上である。
50	pH3.0	規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にある。
	pH6.8	
	水	
100	pH1.2	標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値は42以上である。

4. 試験結果

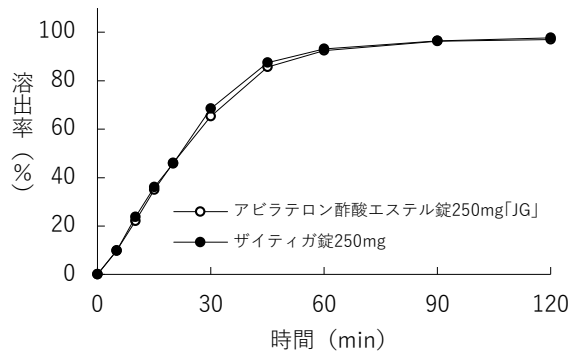
すべての試験条件において、判定時点における試験製剤の平均溶出率が判定基準に適合した。

判定時点における平均溶出率

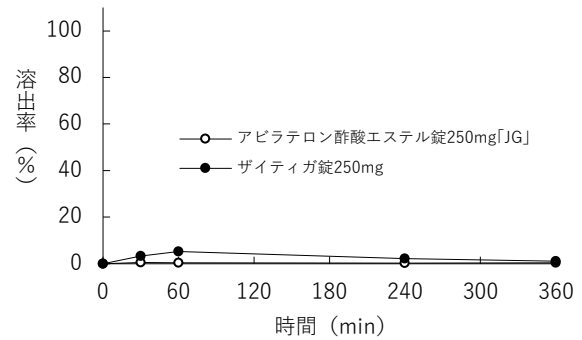
回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	平均溶出率(%)			判定
			標準製剤	試験製剤	差	
75	pH1.2	15	36.0	35.0	−1.0	適
		45	87.5	85.7	−1.8	
50	pH3.0	360	1.1	0.3	−0.8	適
	pH6.8	360	0.0	0.0	0.0	適
	水	360	0.0	0.0	0.0	適
100	pH1.2	10	36.1	41.5	+5.4	適
		30	83.1	84.9	+1.8	

溶出プロフィール

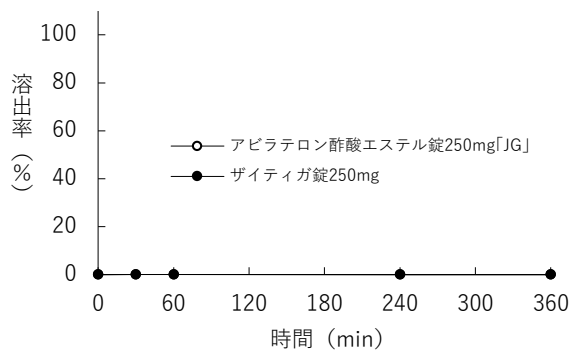
75rpm、pH1.2



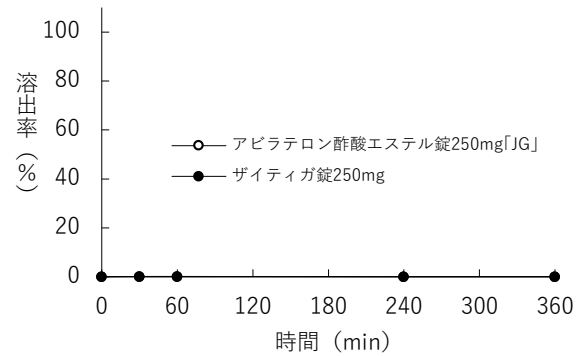
50rpm、pH3.0



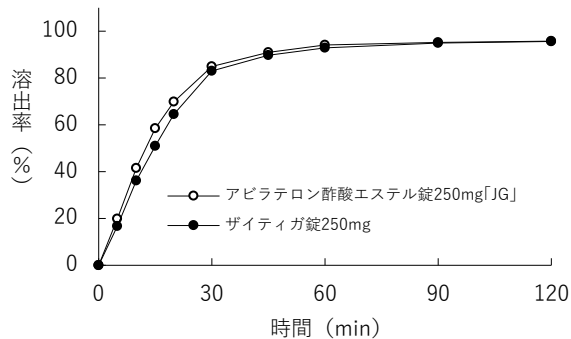
50rpm、pH6.8



50rpm、水



100rpm、pH1.2



5. 結論

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に従いアピラテロン酢酸エステル錠250mg「JG」の溶出試験を実施し、すべての試験条件においてガイドラインで定める類似性の判定基準に適合し、標準製剤ザイティガ錠250mgとの溶出挙動の類似性が確認された。

2025年8月

001